

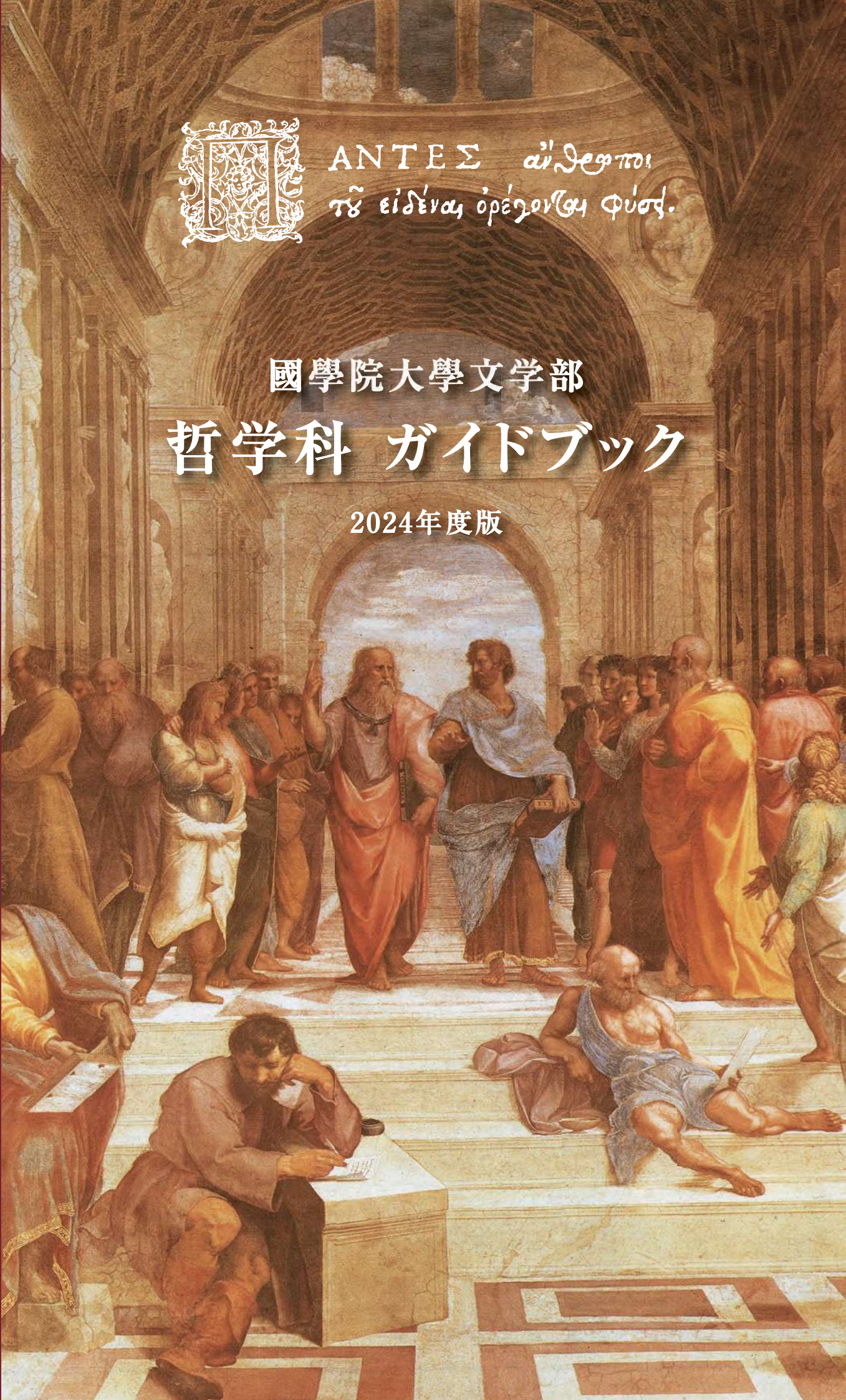
Kokugakuin University Department of Philosophy



ΑΝΤΕΣ αὐθροισι
τῶ εἰδέναι ὀρέγονται φύσιν.

國學院大學文学部
哲学科 ガイドブック

2024年度版



國學院大學

もっと日本を。もっと世界へ。

Introduction



楊洲周延画「幻燈写心競 洋行」
明治 23 (1890) 年刊 國學院大學博物館

Kokugakuin University



FacebookやTwitterでは、学科のホットな空気をお伝えしています。教員の著書紹介、イベント告知、卒業生たちの活躍、教員や学生による学科紹介動画、など盛りだくさん。是非ご覧ください。



<https://www.facebook.com/kokugakuinphilosophy>



<https://twitter.com/kokugakuinphilosophy>

哲学・倫理学コース

古代ギリシア以降受け継がれてきた哲学の精神を、現代に生きる者として、どのように受容するかをまず学びます。ソクラテス、カント、ニーチェ、ハイデッガーなど古代から現代までの西洋哲学史の系譜を読み解きながら、とりわけ一年生からの少人数制の基礎演習を通じて、自らの「問いかける力」、「思考力」を磨きます。哲学・倫理学コースでは古今東西の哲学や思想、さらには「応用倫理学」「宗教哲学」「科学哲学」「言語論」など、幅広く学生の関心に対応して様々な角度から哲学的知識を探っていきます。演習や特殊講義を通じて、「存在とは何か」、「幸福とは何か」、「死とは何か」など、個々の問題関心を掘り下げつつ、自らの哲学的思索の集大成としての卒業論文作成に取り掛かることになります。

美学・芸術学コース

美学は、西洋哲学の一分科として成立しましたが、諸芸術の動向の理論的・史的考察との関連において独自の展開を見てきました。この美学と、具体的な諸芸術ジャンルの理論的考察としての芸術学とを、ともども視野に収めるためのコースです。しかし、美学・芸術学コースだからといって、芸術作品だけが研究対象というわけではありません。目に見えるすべての現象を対象として、ものを考える力と想像力を育成していきます。基礎的科目のほか、特殊講義では西洋美術史、日本美術史、東洋美術史、音楽史、映像論、舞踊論、建築論などさまざまな芸術ジャンルについて学びます。演習は純粋に美学理論的なものから個別芸術学的なものまで、特定のテーマを徹底的に掘り下げ、卒業論文に役立てていきます。

Department of Philosophy

学科代表あいさつ

Takeshi Kanasugi



哲学科 学科代表

金杉 武司

気候変動や地震などの自然災害、資本主義のグローバル化による貧富の格差拡大、ポピュリズムの台頭による民主主義の揺らぎ、AI技術の発達と労働市場へのその影響、そして感染症の大流行など、私たちは先行きが不透明な不安な時代に生きていけると言えるでしょう。そのような時代の中で、皆さんは、なぜ哲学に興味を持ったのでしょうか？まさに先行きが不透明な時代を生きるための拠り所となる何かを求めて？ものごとの根底にある真理や本質を教えてくださいそうな知的な雰囲気に憧れて？あるいは、哲学書や哲学的な小説・映画などに会い、その面白さに魅了されて？それとも、日々の生活の中で生じた切実な問題に対する答えを求めて？哲学をこれから学ぼうとしている皆さんのほとんどは、哲学という学問が本当のところどのようなものであるかを理解していないでしょう。しかし、上に書いたようなきっかけで哲学に関心を持った人はいずれも、哲学という学問の一つの側面を捉えていると言えるでしょう。

哲学では、「私」とは何か、「善悪」とは何か、「美しさ」とは何か、私たちはどう生きるべきなのか、「世界」とは何か、…というように、あまりに身近であったり当たり前であったりするために普段は振り返って考えることのない根本的なものごとについて考えます。これらの問いは、人間が自分自身やものごとについて振り返って考える力（理性）を持つ知的な生物である限り、誰もが一度は頭に思い浮かべるものでしょう。そして、哲学をより深く体験することを通して、今まで思ってもみなかった「ものごとの見方・考え方」に出会ったときには、「そうか！」という得も言われぬ知的興奮を感じることでしょう。このような純粋に知的な喜びを味わうことができるという点に哲学の面白さがあります。

しかし、哲学は単なる知的ゲームではありません。そこに哲学の難しさと苦しさがあります。上に挙げたような問いについて自分の頭だけで考えようとしても、すぐに行き詰まってしまいます。自分なりの考えを組み立てていくには、同じ問いに取り組んできた哲学者たちのテキストから做すべき考え方を学んだり、仲間と議論することで自分の考えを磨き上げていったりする訓練が必要です。この訓練は決して簡単なものではなく、ときに苦しいものです。そのような訓練を粘り強く続けるには、上に挙げたような問いについて考えることが、何らかの形で切実なものとして自分の生に結びつき、自分の一部になっている必要があるのかもしれない。

このように書いていると、「哲学って大変そうだな…」という声が聞こえてきそうですね。しかし、以上のような難しさや苦しさを少しでも乗り越えた先に、哲学の本当の意味での面白さがあります。そして、その面白さを少しでも味わえるようになったときには、ものごとや問題の本質を分析する力や、考えをまとめる力、他者の視点に立って考える力など、生きていく上で（そして、さまざまな仕事をしていく上でも）重要な能力が向上し、成長した自分に出会えるはずですよ。

我が哲学科には、皆さんのさまざまな知的関心に応えるべく、西洋・東洋・日本の哲学、倫理学、美学、芸術学・美術史等関連分野の多彩で魅力的な教育プログラムが用意されています。皆さんも哲学科で自ら「哲学すること」の面白さを発見して下さい。

Curriculum

専門科目構成（参考）



ΑΝΤΕΣ ἀνθρώποι
τῶ εἰδέναι ὀρέγονται φύσει.

基幹科目	演習・卒業論文	基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ	哲学演習 美学・芸術学演習 卒業論文
	共通科目	西洋哲学史Ⅰ 倫理学 論理学 芸術学	哲学概論 美学 日本哲学	
	哲学・倫理学系科目	西洋哲学史Ⅱ 日本思想史 中国思想史	インド思想史	哲学特殊講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
	美学・芸術学系科目	日本美術史 東洋美術史	西洋美術史	美学・芸術学特殊講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
<div style="display: flex; justify-content: space-around; font-size: 24px; font-weight: bold;"> 1年 2年 3・4年 </div>				
展開科目		ギリシャ語Ⅰ・Ⅱ ラテン語Ⅰ・Ⅱ サンスクリット語Ⅰ・Ⅱ 科学哲学	ギリシャ語Ⅲ・Ⅳ ラテン語Ⅲ・Ⅳ サンスクリット語Ⅲ・Ⅳ 応用倫理学 現代哲学 宗教哲学	言語論 比較思想 キリスト教概論 仏教概論 比較芸術学
	関連科目	日本史概論Ⅰ 東洋史概論Ⅰ 西洋史概論Ⅰ 宗教学Ⅰ・Ⅱ	人文地理学 自然地理学 地誌学 憲法ⅠA・ⅠB 国際法の基礎 国際政治A・B 国際経済 公共部門と財政 社会経済学 社会保障論	心理学A・B 国際紛争処理法 政治学概論 社会学A・B

授業紹介



基礎演習の授業風景

基礎演習 I A

担当教員：藤野 寛

哲学の勉強の仕方について哲学的に考えることを試みます。「私はなぜ哲学科の教員／学生になったのか」「大学での勉強は高校までの勉強とどう違うのか」「本・論文をどう読むか」「論文とは日記や小説とは違うどんな文章か」「哲学的ってどういうことか」「私の哲学というものがあるのかーカントの哲学があるように」「哲学史とどうつきあうか」「哲学と科学、芸術、宗教の関係はどうなっているのか」といった問いについて、教員が書いた文章を事前に読み、それに対するレスポンスを（20人前後の）受講生が書いてきて、みんなで披露し合い議論します。本を読み文章を書くことに対するハードルを下げることで、そして哲学の勉強が楽しくなることが目標です。



日本美術史の授業風景

日本美術史

担当教員：藤澤 紫

海外でも評価の高い日本の美術、その魅力はいたどこにあるのでしょうか。この講義は、日本の美術や伝統文化に興味を持ち、それらを「見たい・知りたい・楽しみたい！」と感じる受講生に向けた授業です。「浮世絵とメディア」「アニメーションや漫画の源流」「美術と国際交流」「展示会の現在」などの身近な観点から、その特質に迫ります。授業の前半はテキストやレジュメを用いた基礎学習、後半はパワーポイント等のビジュアル機器を活用した応用学習になります。簡単な工作も交えて体感的に学びますので、一緒に日本美術の豊かな世界を楽しみましょう。



参考図：三代歌川豊国
「今様押絵鏡 大原武松」
万延6年（1860）（架蔵）



応用倫理学の授業風景

応用倫理学

担当教員： 小手川正二郎

国会議員の女性枠を設けることは「逆差別」になるのか、新型出生前診断は障害者を差別することにつながるのか、身体を売り買いすることはどこまで許されるのか、死刑は「最も重い刑罰」と言えるのか、日本は難民をどの程度受け入れるべきなのか。議論の分断や対立に陥りやすいこうした問いをめぐって、応用倫理学の授業では、まず実状についてしっかりと把握したうえで、差別と単なる区別はいかなる点で異なるのか、心身の自由や移動の自由はなぜ、そしてどの程度保障されるべきなのかに遡って考えていきます。そして、グループディスカッションやレポートの相互採点等を通して、異なる立場に立つ人の主張や前提を理解したうえで、受講生一人一人が「自分の頭で考える」ことを試みます。



卒業論文発表会の風景

卒業論文発表会

哲学科の学びの集大成として卒業論文を作成します。そして國學院大學哲学会および哲学研究室の主催で、毎年3月に哲学科の卒業論文発表会を行います（優秀論文に選ばれた数名が発表）。教員、学生のほか、哲学科OBも聴講に訪れ、哲学科らしいバラエティに富んだ内容の発表で、質疑応答でも活発なやり取りが見られます。以下は、優秀論文に選ばれた論文タイトルの一例です。

- 「「共感」から考える世代間倫理の問題」
- 「女性的身体の語りについて」
- 「バイアスと向き合う」
- 「性自認を再検討する」
- 「熊野が語る日本人」
- 「新版画のころみ 一水の表現を中心に」
- 「日本近世・近代の意匠研究—陶磁器を中心に—」
- 「甲斐庄楠音と日本近代の女性像」
- 「消費されるイメージ—デジタルイメージ論に向けて」
- 「現代アートをとりまく社会活動とその実態」

教員紹介



人生は可笑しい

藤野 寛 教授

専門分野：西洋近代・現代哲学、倫理学／ドイツ現代思想

文学部に入学したものの、自分が何をしたいのか、自分に何ができるのか、わからないままに、消去法で選んだのが、哲学科だった。おかげで、一体自分は何をしておれば哲学していることになるのか、という問いが、新たにつけ加わることになり、いまだに答えは —もちろん— 出ていない。ただ、哲学の本や論文を読みながら自分の頭に浮かぶ考えをノートに書きなぐっているときが何よりも楽しい、という可笑しい人生になってしまった。「人生は可笑しい (absurd)」とは、カミュやネーゲルも言っていることだ。哲学も、「人生の可笑しさ」とつきあう —かなり可笑しい— やり方の一つだ、と思う。ふんだんに —できれば苦笑・失笑ではなく、朗らかに— 笑うこと、それが目標だ。



高校生と
大学一年生のための
倫理学講義



友情の哲学
緩いつながりの思想



「承認」の哲学
他者に認められるとは
どういうことか



人生は苦いが、その実は甘い

小池 寿子 教授 (2024年度前期末に退職)

専門分野：西洋美術史／死の図像学

「人生は苦いが、その実は甘い (La vie est amere, mais le fruit est doux)」。大学に入学して間もなく、フランス語の授業でこのような一文を覚えました。大学生活とは、さまざまな悩みを抱えながら成長してゆく期間と思いますが、その経験はたとえ苦く、辛くともやがて香しい果実として結ばれるでしょう。人類が生み出してきた芸術も、いわば、生死を重ねることで築かれてきた人類の歩みの過程に花開いた美しい果実です。できるだけたくさんの芸術作品に触れ、そこに多くの生死の歴史を学び、そしてそれを糧にしながら、自らの人生を豊かに育んでほしい、そのような願いをもって美術の歴史を語っています。



アートギャラリー
宗教画



西洋美術の歴史
中世 II



Web美術手帳
コロナ禍と芸術
「死」の表現史

ドキリとするほどのリアルを感じて

木原 志乃 教授 専門分野：西洋古代哲学／古代ギリシア医学思想史

周りにいる人々とのうめがたい距離・断絶・孤独を感じる時。実はその不安や戸惑いのなかにこそ、大切にすべきあなたの存在の核があり、哲学の問いかけの始まりがあるのかもしれない。地下の迷宮に潜りアリアドネの糸を手繰りよせ、自分にとっての「ほんとう」をめぐって探究する。その難しさと面白さを日々経験する場としての哲学科です。空しい欲望からは遠ざかり、「隠れて生きよ」と言ったのは快楽を追求したエピクロスです。夥しい情報が慌ただしく消費されゆくのみ現実社会のなかでひととき立ち止まり、わが哲学科での学びにおいてドキリとするほどのリアルを感じてほしいです。



ソクラテス以前の哲学者たち(共訳)



西洋哲学史I
「ある」の衝撃からはじまる(共著)



流転のロゴス

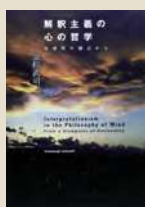
哲学科の教員も議論の「仲間」

金杉 武司 教授 専門分野：西洋近代・現代哲学／心の哲学を中心とした分析哲学

哲学を学ぶということは、過去の哲学者たちの思想を知るではありません。過去の哲学者たちが取り組んできた哲学的問題、つまり真理・善悪・美などの人間にとって基本的なものごとの本質は何かということについて自分自身でも考えられるようになること、これが哲学を学ぶということに他なりません。しかし、哲学的問題について自分だけで考えるのはとても難しいことです。そのため、哲学では、同じ問題について考えている「仲間」と議論することがとても大切です。哲学科には、そのような「仲間」がたくさんいます。われわれ哲学科の教員もその「仲間」たちの一人です。このような「仲間」たちとともに、充実した4年間を過ごしてみませんか？



心の哲学入門



解釈主義の心の哲学



哲学するってどんなこと?

誰にでも開かれた学問

小手川 正二郎 准教授 専門分野：西洋近代・現代哲学／現象学

「哲学」と聞くと難解な学問というイメージをもつ人もいるかもしれません。しかし、哲学は、数式や条文を暗記したり、膨大な情報を収集したりする必要がなく、これまで培ってきた思考力や積み重ねられた経験から出発できるという点では、むしろ誰にでも開かれた学問だといえます。哲学の真の「難しさ」は、古典の読解や他人との対話を通じて、自分とは異なる考え方に会ったとき、自分のそれまでの考え方や生き方を根本から問い直すことができるかどうかという点にあります。そしてこの点こそ、哲学の最大の魅力があると思います。聞こえのよい言葉や流行の思想などに惑わされず、哲学の真の「難しさ」と「楽しさ」を共に味わいたいと思う学生を心から歓迎します。



現実を解きほぐすための哲学



甦るレヴィナス

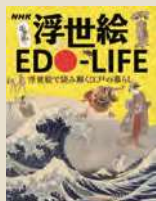


フェミニスト現象学入門

作品に出合う喜び、知る楽しみ

藤澤 紫 教授 専門分野：日本美術史、日本近世文化史、比較芸術学

専門は日本美術史、江戸文化論、比較芸術学など、特に浮世絵を軸とした近世・近代の絵画史研究を進めています。油彩画を学んでいた高校時代に訪れた印象派の展覧会をきっかけに、浮世絵の豊かなデザイン性にふれ、これらが西欧諸国に影響を与えたこと、さらに当時のメディア文化を担ったことを知り、すっかり魅了されてしまったのです。ほかにも子どもや家族の表象文化、「見えざるものを描く」異界表現なども近年の研究テーマです。また教育活動の一環として、展覧会、放送、出版業務などにも携わりながら、日本美術や文化の魅力を国内外に発信するよう心がけています。「作品に出合う喜び、知る楽しみ」をキーワードに、一緒に研究を深めましょう。



『NHK 浮世絵 EDO-LIFE 浮世絵で読み解く江戸の暮らし』（監修）



『日本浮世絵博物館 浮世絵名品100選』（責任編集）



『鈴木春信絵本全集』（編・著）

ときには犀の角のように

渡辺 俊和 准教授 専門分野：インド哲学・仏教学／インド認識論・論理学

大学の、特に哲学科で学問をすることの醍醐味は、多くの人と交流し、これまでは思いもよらなかった生き方・考え方に触れることではないでしょうか。「ブレない自分」などに固執していたらもったいない。多くの他者と一周りの人たちとは直接に、そして古代から現代までの様々な思想家たちとは書物を介して間接的に一議論をし、そこから生まれてくる、新たな自分を楽しんで下さい。世界は想像以上に広く、そして深いです。それでもときにはひたすらに、あたかも犀の角のごとく、孤独に自らを省み、そして理想に向かってさらなる一歩を踏み出しましょう。



On the development of the early Sāṅkhya theory of proof as reconstructed from Dignāga's criticism



『ブラジュニャーカラグプタによる vyatirekin 批判：PVA ad PV IV 218-224 和訳研究』



Jinendrabuddhi's Viśālamalavati Pramāṇasamuccayaṭīkā Chapter 6

美学から人間と世界を見てみると

岡本 源太 准教授 専門分野：美学／西洋ルネサンス思想／現代思想

美学、という学問は初めて耳にしたかもしれませんが。夏目漱石『吾輩は猫である』に金縁眼鏡の美学者・迷亭が登場するように、実は日本でも研究されて優に百年を超えます。美や芸術についての哲学、と言えいいでしょうか。パスカルの有名な言葉に、「もしクレオパトラの鼻がもうちょっと小ぶりだったなら、世界の顔つき全体が変わっていたことだろう」というのがありますね。美しさなんてほとんど何でもないように思えても、それが人類の歴史を変えてしまったりするのです。想像だにしない人間と世界の姿が見えてくるところが、哲学と芸術の面白さでしょう。



ジョルダナー・ブルーノの哲学



『明るい部屋』の秘密 (共著)



原典イタリア・ルネサンス芸術論 (共訳)



就職情報

就職に有利ってどういうこと？

進路アドバイス会

哲学科では、7月に「進路アドバイス会」と題して、就職・進学を経験した哲学科OB・OGや現4年生によるパネルトークや個別ブース相談会を開催しています。和やかな雰囲気の中で、それぞれの分野で活躍している卒業生からいろいろなお話を聴くことができます。



※詳しくはFacebookをご覧ください。

<https://www.facebook.com/kokugakuinphilosophy>

資格

- 教育職業免許状
 - 中学校教諭一種免許状
 - 社会 ▲保健体育
 - 高等学校教諭一種免許状
 - 公民
 - ▲地理歴史 ▲保健体育
 - 小学校教諭一種免許状※
- 学芸員
- 図書館司書
- 学校図書館司書教諭
- 神職（明階検定合格正階授与）

*図書館司書課程については、選抜試験（11月下旬実施）を行います。（学校図書館司書教諭課程は面接選考）

*学校図書館司書教諭課程は、教職課程も合わせて受講する必要があります。

*神職（正階）取得後、明階の授与を受けるには、卒業後、実務経験が必要です。

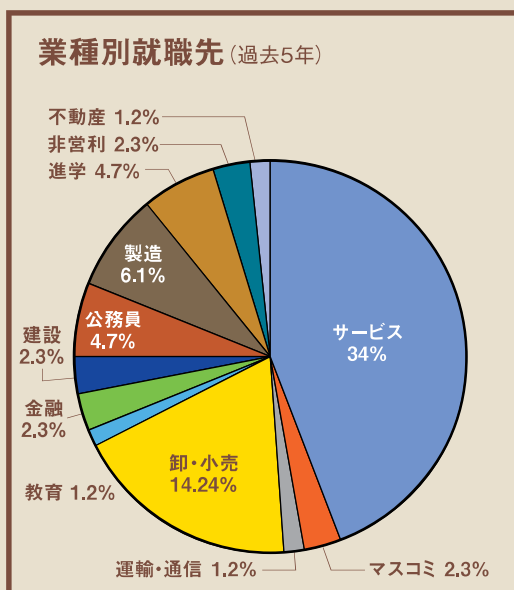
*▲の免許は、●の免許を取得するための課程履修をすることを条件として取得可能です。

※副免許として受講することができます。選抜試験があります。

主要就職先・進学先

- | | |
|-----------------------|----------------|
| 大成建設(株) | (株)図書館流通センター |
| イオンリテール(株) | 図書印刷(株) |
| ダイソン(株) | 積水ハウス(株) |
| (株)モンベル | さがみ農業共同組合 |
| (株) Franc Franc | 公益財団法人東京都歴史文化財 |
| (株)USEN-NEXT-HOLDINGS | 私立高等学校 |
| TIS(株) | 公立高等学校 |
| ヤマトシステム開発(株) | 厚生労働省 |
| (株)日立ソリューションズ | 法務省東京出入国在留管理局 |
| NECネクサソリューションズ(株) | 警視庁 |
| 三井住友ファイナンス&リース(株) | 千葉県警察本部 |
| 明治安田生命保険相互会社 | 特別区競馬組合 |
| ユザワヤ商事(株) | 東京都庁 |
| (株)トーハン | 防衛省・自衛隊 |
| TOPPAN エッジ(株) | 柏市役所 |
| (株)KADOKAWA | |
| 三菱UFJモルガンスタンレー証券(株) | 國學院大学大学院 |
| (株)横浜銀行 | ヨーク大学大学院 |
| (株)京業銀行 | 埼玉大学大学院 |
| (株)巴商会 | 千葉大学大学院 |
| (株)日製鋼所 | 上越教育大学大学院 |
| 東急リパブル(株) | 東京藝術大学大学院 |
| (株)スタジオアリス | |

業種別就職先（過去5年）



卒業生の声



©mikico

諏訪 哲史

第100期卒業生 作家 (2007年芥川賞受賞・群像新人文学賞受賞)

様々な学生に説いていることだが、創作、あるいは広義の言語芸術を志す者が、ズバリ、文学や創作の学科を専攻してしまっている。これは甚だしい間違いである。

表現行為、とりわけ小説なる芸術は、その「外部」にいる者へのみ許された営為なのである。小説の内部に安住し、外部から来た新奇な感覚を、法王然として、これは小説だ、これは小説ではない、と選別するパラノイアは、彼自身、小説家として既に死んでいるのである。

かの三島由紀夫は法学を修めた。手塚治虫は医学。彼らはそれぞれ小説の外部、漫画の外部に立ったからこそ、その芸術様式を外から変えることを可能にしたのである。

さて、哲学とは、「あらゆるものの外部に立つ」学である。同時に、「あらゆるものの中心を穿つ」学でもある。人の生が拠って立つ方途、存在や美や宗教を掘り下げ、社会的実用に与しない学への意志を鍛えることが、自然、君の文体を鍛え、生を鍛えてくれるのである。



※写真は、2回目のモスクワ赴任時代、取材した女子棒高跳び金メダリストのイシンバエワ選手と

稲熊 均

第90期卒業生 東京新聞 (中日新聞東京本社) 事業局長、元モスクワ支局長

卒業以来、足を向けることなかった國學院にほぼ毎月通うようになったのは十年ほど前のことだ。院友マスコミ塾の講師として、後輩の指導に当たることになったためだ。

実を言えば、私自身は志望していた新聞社の就職試験に全滅し、業界紙のアルバイトとしてマスコミの世界に入った。以来いくつかの会社を経て、現在の中日新聞 (東京新聞) に入社したのは二十八歳の時だ。社会部や経済部の一線で取材経験を積み、最初のモスクワ特派員を終え帰国した直後、塾から講師の依頼を受けた。

自分が入社試験で落とされただけに、教え子の挑戦にはリベンジのような思いもある。個人指導した学生が大手の日刊紙やスポーツ紙に合格する度に、この上ない喜びを味わえることができた。少し残念なのは、マスコミを目指す哲学科の学生があまり多くないことだ。記者、ジャーナリストとしての潜在力のある学生は哲学科に大勢いる。挑戦するなら力になりたい。



野村 雄一

第123期卒業生 名古屋大学（博士候補生）、野村総合研究所インド支社

この場でお伝えしたい2つの事は、「人生はよくわからない」が、「学術・技術は長い」という事です。私は現在、名古屋大学の博士候補生としてギリシャ哲学の論文を執筆しつつ、野村総合研究所のインド支社で日本の社会的な問題に関するコンサルティング業務に従事していますが、元を辿りますと、本学の木原先生のお人柄と古代哲学の研究の面白さに惹かれて師事させていただき、学部頃にギリシャ哲学の研究者として生きる事を決めていました。その熱意は院生の時代に引き継がれ、名古屋大学で金山先生と岩田先生のご指導の下でギリシャ研究に邁進して、学会参加、論文執筆、ポスター発表、研究会運営、留学等の研究者になるために必要なプロセスを歩んできました。ただ、冒頭で申し上げたように「人生はよくわからない」ので、現在は、これまでのアカデミックキャリアとは全く異なる領域に属しています。しかし、ここで個人的に興味深い点は、現在の所属している領域が過去と異なるからといって、研究者の時に抱いていた問題意識が変化したというわけではなく、むしろ、その問題を現在のコンサルティング業務を通して得た経験や知見から考え続けているという事です。もはや、10年以上に渡って哲学の問題に触れ続けていますが、哲学という「学術・技術は長い」と実感しています。



小川 滋子

第112期卒業生 松戸市戸定歴史館学芸員(松戸市職員)

「目立って賢くもないけど、馬鹿ではない(と思う)」

國學院大学の哲学科は、似非謙虚な自信家だった私にとって実に快適な巣でした。「無知の知」という言葉を盾に我が道を行き、エヴァンゲリオン、太宰治、ドイツ観念論、幻想絵画、渋谷駅ハチ公、創世神話…などなど、各々が興味のままに挑んだ卒業論文が懐かしく思い出されます。

哲学科で培った思考力と相互理解の精神は、ロストジェネレーションと称された私の世代が見舞われた未曾有の不況・就職難を前に無力だったこともあります。ですが今、私がタカラヅカ的倍率を勝ち抜き学芸員を続けているという現実、何にでも興味を持つ嗜好性と臨機応変が求められる現場力で得た将来であり、紛れもなく哲学科在籍の成果です。

Fluctuat nec mergitur。—たゆたえども沈まず—を座右の銘に、今の夢は、偽りなく謙虚に、定年までなんとか無事に勤めお任せ晩年まで健康でいることです。



興津 香織

第108期卒業生 國學院大學講師

ただ何となく、高校の世界史の教員を志望して國學院に入学した私が現在、哲学科でサンスクリット語を教えているというのは、当時の私にとって全く想像もつかない事でした。

入学当初はどんな方向で勉強したいか定まっていませんでしたが、広く様々な授業を受講することで、その後の私の人生を決めたといっても過言ではない授業に出会うことになります。それがサンスクリット語(インドの古典言語)で、初歩からじっくり宮元啓一先生に教えていただきました。まさにそれがきっかけでインド哲学を専門とする研究者として研究を続けています。何もわからないところから育て上げていただいた大学の四年間が研究者としての私の基礎となっています。このように大学にはいろいろな運命の出会いや可能性があるのです。





在学生の声



西田 琴音

哲学科3年（哲学・倫理学コース）

私が國學院大學の哲学科に進んだ理由は、美学と哲学の両方に関心があったからです。本学の哲学科は3年次から哲学・倫理学コースと美学・芸術学コースに分かれ、専門的な内容を学ぶこととなりますが、1・2年次は哲学の領域からも芸術学の領域からも、受けたい授業を選ぶことができるようになっています。私は入学当初は作品や作家を研究したい気持ちが強く、美学・芸術学コースに進むつもりでした。しかし勉強をしているうちに、芸術や美の根底にある哲学的な問いに関心が移行していきました。そのため、現在は哲学・倫理学コースに所属しながら、哲学と美学の勉強をしています。私と同じように哲学と芸術の両方に関心がある人にとって、本学の哲学科はとても良い環境なのではないでしょうか。

哲学に興味はあるけど、人と議論するのは苦手という人がいるかもしれません。私自身、自分の考えを話すのが得意ではなく、話し合いの場には苦手意識があります。しかし、自分の意見で相手を論破するのではなく、一つの大きな問題を一緒に考え、共同してよりよい答えを見つけだすのが哲学の営みであると私は考えます。様々な人の意見を聞き、大きな問いに対して一緒に頭を悩ませることが答えを出す糸口になるのですから、議論が苦手でもどうか心配せずに入学してください。

國學院大學の哲学科には、心の哲学を専門とする教授、死生観やキリスト教中世美術を専門とする教授など、8名の専任教授がいます。学部だけでなく、自分の興味があることを専門とする教授が居るかどうかで大学を選んでみるというのもよいかもしれません。

私の経験はあくまで一例ですが、学部選択にあたって何か助けになれば幸いです。



井口 昂嶺

哲学科3年（哲学・倫理学コース）

新入生の皆様、初めまして。3年の井口昂嶺です。

3年の後期になると、いよいよ卒業論文のテーマ決めがはじまり、以来、論文の構想をどのようにしようかと、日々頭を悩ませています。私は、3年時から履修した古典ギリシア語の授業の影響を強く受け、プラトンの対話篇を自身の卒業論文の研究テーマとすることに決めました。そこで、古典語やプラトン対話篇の魅力を、この場をお借りして紹介したいと思います。

古典語に関しては、ギリシア語を履修する前に、1年時にラテン語、2年時にサンスクリット語を、と広く浅く学習していました。言語同士のつながり（古典語に限らず）がとても興味深い一方で、それぞれが持つ独自の難しさへの好奇心が、毎週の読解を支えてくれます。言語学習に打ち込みたい方にも、言語学的な関心のある方にも、古典語の履修はおすすめできると思います。

プラトン対話篇について私が最も強く感じている魅力は、古典語や哲学的な探求そのものと共通して言えるようなものかもしれません。その面白さは、現代に生きる私たちとかけ離れたところにあるはずの言語や思想の中に、ハッとするような本質を垣間見ることができる点にあると思います。未知のものに対して適度な緊張感をもち、さらには想像力をもってして、そこに飛び込んでいくような楽しさがあります。加えて、自分が事物のほとんどを理解していないことに幾度も気付かされながらも、いつしか新しい視点を持っていると実感する時、いくらかの達成感もあります。

皆様もぜひ飛び込んでみてください。お会いするのを楽しみにしております。



三浦 結衣

哲学科3年（哲学・倫理学コース）

私からは哲学の恐ろしいところと面白いところを紹介したいと思います。
哲学の恐ろしいところは知らない言葉がわからない言葉で説明されることです。もしくは、知っている言葉と知っている言葉が接続詞で結ばれているはずなのに文章の意味がわからないことがあります。とりあえず一と時間がすぎるのを待っていればその時間はなんとかなるかもしれません。しかし、学期末には課題としてレポートが待っているわけです。授業の内容を受けて自分の意見を述べる必要がありますから、なんとなくでは書けません。そこでようやくプリントを見直してももうお手上げです……。課題のための勉強ではありませんが、そうならないように皆さんは気を付けてくださいな。

もちろん、哲学を学ぶことはとても面白いことです。特に面白いと感じる瞬間は、この人は何を言いたいのだろう、とずっとモヤのかかった状態だったのが「そういうことか！」と理解出来たときです。私の体験ですが最後の授業で「この人は自分が幸せだと証明するためにこんなに言葉を重ねていたんだ！」と急に気が付いたときがありました。そこから難しいことを言っている哲学者だったのが、途端に可愛く思えて面白くなりもっと知りたいと思って卒論の題材に選びました。皆さんにもそんな出会いがあることを願っています。

「自分が求めている答えは隣の人の心のなかにあるかもしれない」 それぞれ学びたいこと、知りたいことをもって哲学科に来られたことと思います。多くの思想に触れて、同じ哲学科の仲間の考えに触れて楽しい大学生活を過ごしてください！応援しています。



足川 凜

哲学科3年（美学・芸術学コース）

私が今、この学科に入ることを決めたきっかけとなったのは一枚の絵画でした。
何も興味ない人から見るとなんの変哲もない一枚の絵画ですが、それは私の人生を大きく変えました。皆さんの中では何かきっかけがあってこの学科に来ることを決めた人もいれば、なんとなく気持ちで入った人など様々な人がいると思います。そして、大学生活にはサークルやアルバイトを含めてさまざまな魅力的な課外活動があります。そのため、勉強に身が入らなかつたりすることがあると思いますが、是非自分の納得する学びを追求し続けてほしいと思います。

私は美学・芸術学コースに属しており、その中でも中世のヨーロッパの宗教画に興味を持っています。そのため、受講している授業の多くはそれに関連しているものですが、そうでないものもたくさんあります。例えば、中世のヨーロッパの宗教画を勉強しようと思った時、まず中世という時代はどのような時代だったのか、文化的な背景や社会・政治的な背景についても学ぶ必要があります。そして宗教画もテーマとしているため、キリスト教という宗教について、関連する宗教との関連、テーマとする作品の関連作品など、突き詰めていこうと思えば当時の言語なども学ぶことができます。もちろん、それを皆さんにやってほしいということではありません。しかし、過去の作品は現代に生きる私たちにも大きな影響を与えていますし、そして未来多くの人々に影響を与えていきます。美学や芸術学は実用的な勉強ではなく、実生活の中で活用できる部分は少ないと思いますが、是非自分の好きなことを突き詰め学び続け、思考し続けることで大学生活をより実りあるものになったらいいなと思います。頑張ってください！



國學院大學 渋谷キャンパス

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28 TEL03-5466-0111

交通アクセス

渋谷駅から徒歩約13分

◎JR(山手線・埼京線) ◎東京メトロ(銀座線・半蔵門線・副都心線) ◎東急東横線
◎東急田園都市線 ◎京王井の頭線

渋谷駅から都営バス 学[03](渋谷～日赤医療センター)

◎国学院大学前下車、徒歩1分

表参道駅から徒歩約15分

◎東京メトロ(千代田線・半蔵門線・銀座線)

恵比寿駅から徒歩約15分

◎JR(山手線・埼京線)

※学内に駐車場、駐輪場はありません。来校の際は、公共交通機関をご利用ください。

ホームページもあわせてご覧ください。

國學院大學

<https://www.kokugakuin.ac.jp>

詳しくは
携帯サイトへアクセス



哲学科ガイドブック 令和6年4月1日 第15刷発行

編集・発行：國學院大學文学部哲学科

Copyright © 2024 kokugakuin university. All Rights Reserved.



哲学科 第122期卒業生 戸谷 浩之